

令和6年度病害虫発生予察情報 発生予報第9号(9月)

令和6年9月27日
発表：福島県病害虫防除所

1 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト（被覆栽培）	灰色かび病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。
	葉かび病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であったが、発病程度の高いほ場が多いため注意が必要である（±）。	多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。
	すすかび病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 ほ場の開口部をネット被覆するように努める。
	コナジラミ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
野菜・花き共通	タバコガ類	全 域	—	平年並	フェロモントラップの誘殺数は平年並であった（±）。	生長点付近をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。
	ハスモンヨトウ	全 域	—	多い	フェロモントラップの誘殺数が平年より多かった（+）。	防虫ネットを設置し、施設内部への侵入を防ぐ。ほ場をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

夏秋トマト（被覆栽培）	<p>■タバココナジラミと黄化葉巻病（TYLCV）</p> <p>本年、複数地点において黄化葉巻病（TYLCV）の発生が確認されています。</p> <p>本病はウイルス病であり、タバココナジラミの媒介により感染します。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしません。また、タバココナジラミ以外のオンシツコナジラミ等による虫媒伝染はしないため、媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底することが重要です。</p> <p>本病の発生を認めた場合、タバココナジラミの侵入・脱出防止を心がけ、発生初期から適切な防除を行ってください。発生施設では、収穫終了後に蒸しこみによって施設内のタバココナジラミを死滅させてください。</p> <p>また、未発生地域においても、購入苗等により持ち込むおそれがありますので注意が必要です。</p> <p>病害虫防除所 HP に掲載している病害虫防除情報「注意喚起 黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策」、病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」もご覧ください。</p> <p>「注意喚起 黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策」 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/544337.pdf</p> <p>病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」 https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/433113.pdf</p>
-------------	--

■トマトかいよう病

ほ場での発生が確認されています。本病は種子や土壌中の残渣に生存している病原細菌が第一次伝染源となり、その後、芽かきや収穫、誘引などの管理作業による二次伝染により被害拡大します。発病が確認されたほ場では次年度に持ち越さぬよう、発病株を速やかに抜き取り、残渣等はほ場外に持ち出し適切に処分してください。

■トマトキバガ

本種は体長約5～7ミリの微少な蛾で、南米大陸が原産です。トマトなどのナス科作物に大きな被害を与えており、幼虫が茎葉や果実をせん孔しながら加害します。

本種は、令和3年10月、熊本県の施設トマトに国内で初めて発生が確認されて以来、令和4年には九州全域、近畿地方で確認されております。本県では、令和5年8月にフェロモントラップでの誘殺を初確認して以降、令和6年度の調査においても7月以降、各地で誘殺が続いています。また、8月以降は複数地点において葉や果実の食害が確認されているため引き続き注意が必要です。

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病害虫防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。

お問い合わせはTEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727またはe-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jpへお願いします。